

# ISAAC(International Study of Asthma and Allergies in Childhood)

## 第 I 相試験における小児アレルギー疾患の有症率

出典	日本小児アレルギー学会誌(0914-2649)16 巻 3 号 Page207-220 (2002. 08) ( <a href="http://search.jamas.or.jp/link/ui/2003040155">http://search.jamas.or.jp/link/ui/2003040155</a> )	
著者	西間三馨 他	
調査地域	福岡県福岡市	
調査時期	1995 年	
調査対象	6~7 歳 (小学 1 年生)、13~14 歳 (中学 2 年生)	
依頼数	6~7 歳 : 3137 人 (36 校)、13~14 歳 : 3004 人 (14 校)	
回収数 (率)	6~7 歳 : 2901 人 (91.4%、男子 : 1464 人、女子 : 1437 人) 13~14 歳 : 2831 人 (94.2%、男子 : 1452 人、女子 : 1379 人)	
診断方法	ISAAC	
有症率	6~7 歳	現症 : 25.6%、既往 : 30.8%
	13~14 歳	現症 : 41.0%、既往 : 52.6%
調査概要	福岡市の小中学生のアレルギー疾患を ISAAC 調査した論文。 低学年で喘息・アトピー性皮膚炎が多く、高学年でアレルギー性鼻炎・結膜炎 が増加し、どの疾患も世界平均より高率でアジアでは最も高かった。	